



1つの資産クラス、多様な戦略： プライベート・デットのための選択フレームワーク



クリス・マーティン
クライアント担当ポートフォリオ・
マネジャー、オルタナティブ戦略

2026年6月

「プライベート・デットは、
インフラストラクチャーや
不動産ローンから、資産
担保ファイナンス、さらに
オポチュニスティック及び
ディストレスト・クレジット
戦略まで、幅広いスペク
トラムを網羅します。」

プライベート・デットは戦略的資産配分においてますます確立された位置を占めるようになりましたが、プライベート・クレジット以外にも多くの選択肢があります。

ポイント:

- **プライベート・デットは単一の戦略ではありません**：プライベート・クレジットから実物資産デット、資産担保ファイナンスなど、サブ戦略は多岐に亘ります。それぞれが特徴的なリスク・リターン特性を持っていますが、多くの投資家は幅広い投資機会のほんの一部にしかアクセスしていません。
- **プライベート・デットのリターン構成は戦略によって異なります**：この違いを理解することで、各配分のサイズやポジショニング、ストレステストの方法が変わります。
- **戦略の選択には、候補リストではなくフレームワークが必要です**：どのプライベート・デット戦略が投資家のポートフォリオに適しているかを査定するための、体系的な枠組みを投資家に提供する、診断用の5つの質問を提案します。

プライベート・デットに投資する機関投資家のほとんどは、実際には、プライベート・クレジット、より具体的には中堅企業向けのシニア担保付きローンを保有しています。このエクスポージャーは、投資家に良好な結果をもたらしてきました。しかし、これはより幅広い投資機会の一角に過ぎず、多くのポートフォリオでは、意図的というよりも初期設定的に、プライベート・デット配分の全体を占めるようになっています。

プライベート・デットは、インフラストラクチャーや不動産ローンから、資産担保ファイナンス（例えば、ロイヤルティや航空機キャッシュフローを担保とするもの）、さらにオポチュニスティック及びディストレスト・クレジット戦略まで、幅広いスペクトラムを網羅します。これらのサブ戦略は、対象とする借り手だけでなく、リスク・リターン特性、金利や景気サイクルへの感応度、そして現実的に達成可能なポートフォリオ目標においても異なります。

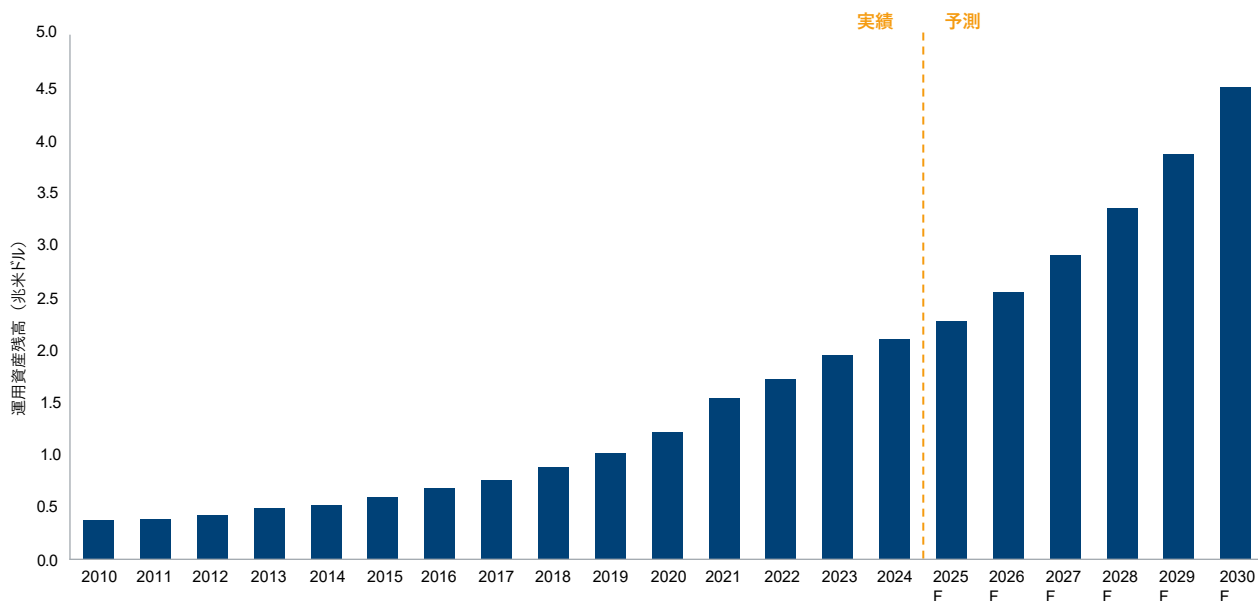
長期のインカム収入を求める年金基金、ソルベンシーIIの資本効率を管理する保険会社、リターン向上を目指す寄付基金は、それぞれポートフォリオにどのプライベート・デット戦略を組み入れるべきかという問いに対して、異なる答えを持っています。

本稿では、プライベート・デット戦略の範囲をマッピングし、リターンの源泉を説明し、どの戦略がどのポートフォリオに適しているかを評価するための実践的なフレームワークを提案することで、より意図的に配分する手法を紹介します。本稿の目的は、プライベート・デットへの投資を推奨することではなく、投資家が幅広いサブ戦略をより目的意識を持って選択できるよう支援することです。

プライベート・デット市場は無視できないほど大きくなっており、今なお成長を続けています

資産クラス全体のプライベート・デットの運用資産残高は現在約2兆米ドルに達するとされ、2010年の約3,800億米ドルから増加しました。Preqinのデータによると、2030年までに約4.5兆米ドルに達すると予測されています。

プライベート・デット運用資産残高の予測成長（兆米ドル）



出所:Preqin、RBCグローバル・アセット・マネジメント、2025年10月時点のデータ。

予測数値は推定値であり、変更される可能性があります。

プライベート・デット市場の成長は、主に銀行が中堅企業向け融資から撤退する中、プライベート・クレジットによって牽引されてきました。一方、世界金融危機後の低金利時代がプライベート・クレジットへの需要を喚起しました。機関投資家は、プライベート・デットの利回り面でのプレミアムやインフレ調整後のインカム収入、およびパブリック市場からの分散効果の組み合わせに、ますます魅力を感じるようになりました。その需要は、金利環境を問わず持続的であることを証明し、構造的なポートフォリオのニーズを反映しています。

現在のプライベート・クレジットにおけるリスク増大の要因を理解する

比較的高い金利が3年間続いたことは、資金が同市場に継続的に流入していた当時から予想されなかった形でプライベート・クレジットの運用環境に変化をもたらしました。レバレッジを抱えた中堅企業におけるインタレスト・カバレッジ・レシオは圧縮され、投資家の収益を押し上げてきた変動金利構造が、同時に借り手のマージンを圧迫する格好となりました。デフォルト率は、絶対値では警戒すべき水準ではないものの、2021年から2022年に見られた歴史的な低水準から着実に上昇しており、ストレスを示すクレジットの範囲も拡大しています。2020年から2022年のレガシー・ビンテージへの相当なエクスポージャーを持つポートフォリオにとって、これはただ漠然としたリスクではありません。

シクリカル（景気敏感）なダイナミクスを増幅する、構造的な圧力もあります。過去10年間にプライベート・クレジットに流入した機関投資家の資金量が、リターンを低下させています。シニア担保付きダイレクト・レンディングのспредは大幅に縮小し、かつてダイレクト・レンディングの表面利回りを特徴づけていた流動性プレミアムや複雑性プレミアムは、一部裁定取引によって消滅しています。

米国では、銀行の資本要件の改定により、大手銀行がレバレッジド・レンディングでより積極的に競争出来るようになり、すでにспредが圧縮されている市場の領域にさらなる圧力を加えています。

対照的に欧州では、いわゆるバーゼルIVにおけるアウトプット・フローの厳格化が銀行の融資意欲を引き続き抑制しており、同市場におけるプライベート・クレジットの構造的優位性が維持されています。

市場の一部では、投資家はわずか2年前に得られていたよりも少ない報酬で、より多くのリスクを受け入れることを求められています。

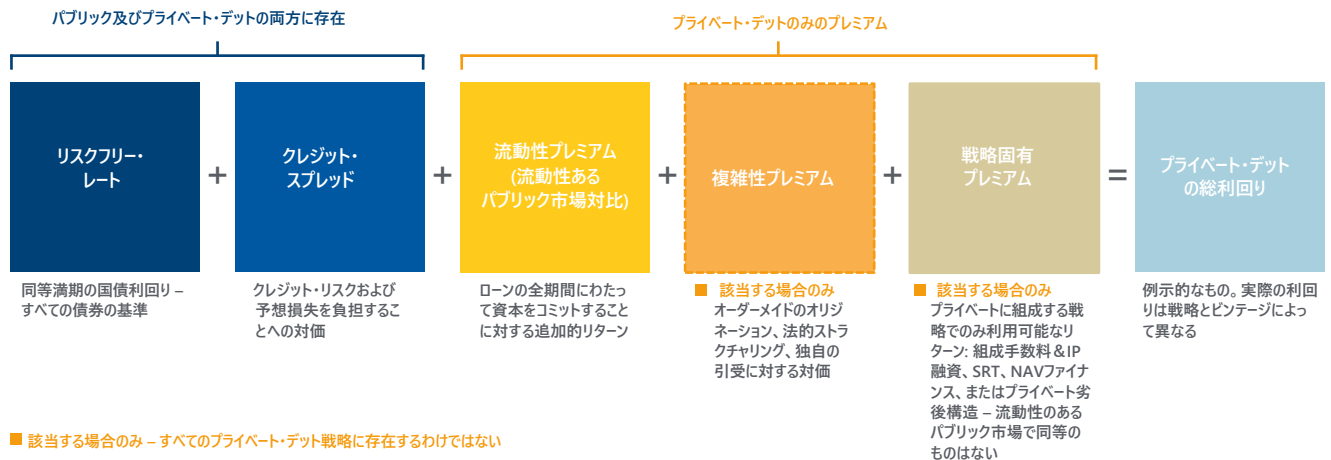
このような環境下で、プライベート・クレジットの枠を超え、異なるリターン・ドライバーや異なる借り手のユニバース、および異なる構造的保護を持つプライベート・デット戦略に目を向けるべき根拠は、この資産クラスの歴史上でかつて無いほど強まっていると考えています。

プライベート・デットにおけるリターンの源泉

プライベート・デットは均一な資産クラスとは程遠いものですが、すべてのサブ戦略に共通するのは、借り手の種類ではなく、その関係性の性質です。プライベート・デットはパブリック市場外で資金調達しており、通常は貸し手と借り手の間で直接取り決められ、公募発行に必要な標準規格や価格透明性がありません。

パブリック・デットとの類似点と相違点を説明するために、トータル・イールドを分解することは有用です。パブリック市場と同様に、トータル・イールドはリスクフリー・レートにクレジット・スプレッド・プレミアムを加えたもので構成されます。プライベート・デットには追加の非流動性プレミアムがあり、戦略や市場環境によっては、その他のリスク・プレミアムもあります。以下のチャートは、これらの構成要素がどのように組み合わせるかを示しています。これらを合わせると、歴史的に比較可能なパブリック・クレジット商品に対して魅力的なプレミアムを提供してきました。これはアノマリーやフリーランチとしてではなく、プライベート・レンディングとパブリック・レンディング間の真の構造的差異に対する対価としてです。

プライベート・クレジットの利回りドライバーの図解



出所:RBCグローバル・アセット・マネジメント、例示のみを目的としています。
構成要素は実際の縮尺ではありません。複雑性プレミアムと戦略固有プレミアムは、サブ戦略に関連する場合に適用されます。

プライベート・デットにおけるリスクを理解する

プライベート・デット戦略は様々な方法でグループ化でき、リスクとリターンの根本的なドライバーはサブ戦略間で大きく異なります。これらの違いを、資産クラスレベルだけでなく、各構造で実際に何が問題になりうるかというレベルで理解することが、資産配分のサイズ決定や管理において鍵となります。

プライベート・デットに関連する追加リスク

流動性とリファイナンスの依存性: パブリック市場とは異なり、プライベート・デットにはセカンダリー市場での価格発見機能がなく、出口メカニズムも限定的です。投資家は通常、ローンの全期間にわたってコミットしますが、流動性への依存は双方向です。多くの戦略において借り手も、満期時に借り換えをするため、機能するリファイナンス市場に依存しています。2022年から2023年に一部の不動産クレジットで起きたように、そのアクセスが閉ざされると、流動性は急速に枯渇する可能性があります。NAVおよびファンド・ファイナンス戦略は、原資産ポートフォリオの評価額に依存するため、さらにリスクに晒されることとなります。アクティブ運用の上場クレジットとは対照的に、ポジションを売買できないことにより、ボラティリティが高まった際に運用者がポートフォリオを調整する能力が制限されます。

バリユーションと透明性: プライベート・デットの投資対象は、確認可能な市場価格ではなくモデルによって評価されることが多くあります。これにより2つのリスクが生じます。モデル評価によるスムージングは損失を複数の報告期間に分散させ、安定性について誤解を招く状況を作り出す可能性があるということと、そして原資産の不透明性により、報告された評価額が現在の状況を反映しているかどうかを独立して検証することが困難になるということです。どちらの影響も、市場の混乱期に最も顕著かつ重大になる傾向があり、リスク管理対応を遅らせる可能性があります。

パブリック・デットとプライベート・デットに共通するリスク

もちろん、認識すべき様々なその他のリスクがあり、以下は通常、パブリック・デットとプライベート・デットの両方に共通しますが、これもサブ戦略によって異なります。

返済リスク: これは、ローンがキャッシュフローか資産価値か、またはその両方からどのように返済されるかに関するものです。戦略がどの返済メカニズムに依存しているか、そしてそのメカニズムがストレス下においてどれだけ耐性を有するかを理解することが、意味のあるリスク評価とシナリオ分析の出発点となります。

構造的増幅メカニズム: クレジット構造は、原資産の質だけでは明らかにならない方法でリスクを再分配し増幅します。レバレッジは資産価値の小さな変動に対するリターンへの感応度を高めます。トランシェ構造と劣後構造は、ファースト・ロス・リスクを劣後ポジションに集中させる一方で、シニア保有者には見かけ上の保護を提供します。その結果、ポートフォリオの緩やかな悪化が、特定の保有者に過大な損失をもたらす可能性があります。資本構造の位置は、クレジット評価と同様に重要です。

「プライベート・デットの場合、モデルベースおよび鑑定評価主導のバリュエーションが報告されるリターンをスムーズ化するため、過去の相関データは真の相関を過小評価している可能性があります。」

相関とシステミック・ストレス: クレジット戦略は、通常の市場環境では十分に分散されているように見えるかもしれませんが、システミック・ストレスの局面ではその分散効果が急激に低下する可能性があります。リスクオフ圧力が強い場合、戦略固有の違いは、共通の機関投資家のリスク要因、例えば同時解約プレッシャーや資本制約、さらに市場全体での流動性の枯渇などのリスク要因ほど重要ではなくなります。

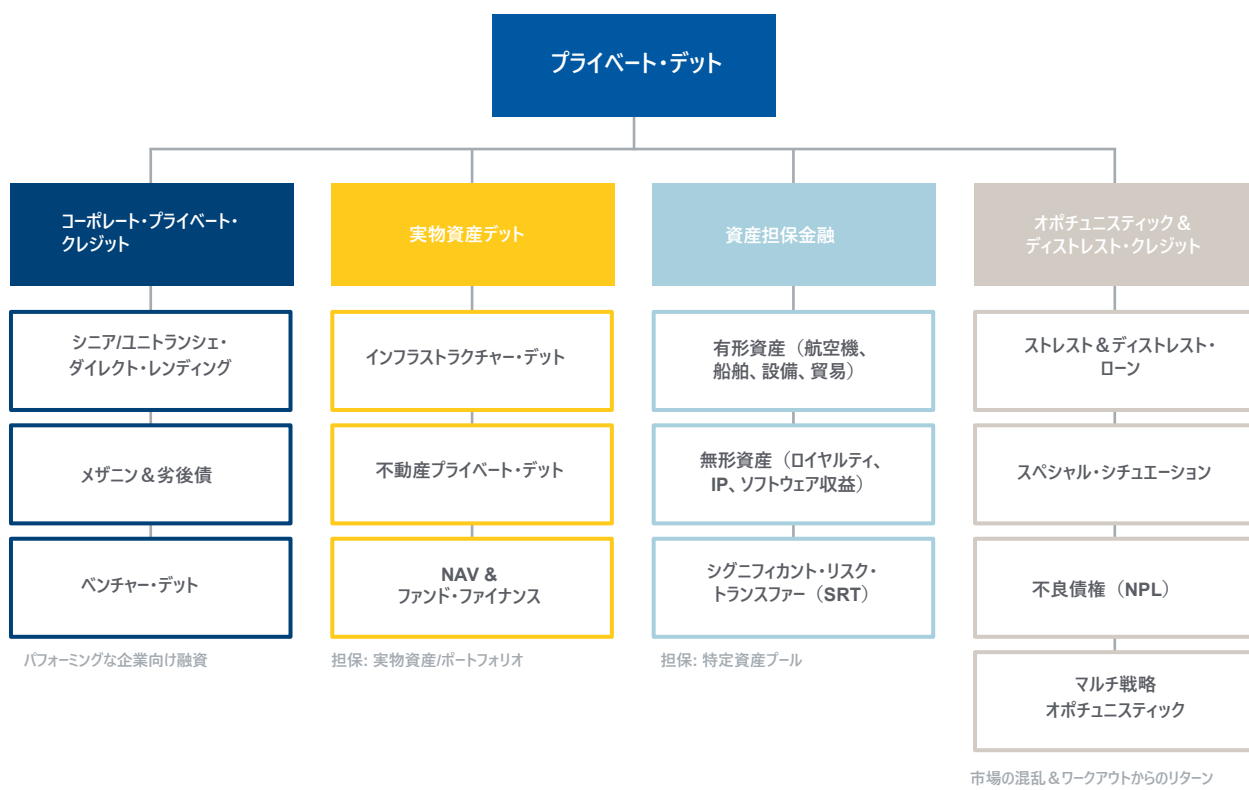
ストレス時の相関は通常、正規化された推定値が示唆するよりも高く、ポートフォリオ構築においてはこれを考慮すべきです。プライベート・デットの場合、モデルベースおよび鑑定評価主導のバリュエーションが報告されるリターンをスムーズ化するため（上記のバリュエーションのセクションで述べました）、過去の相関データは真の相関を過小評価している可能性があります。

どの戦略がプライベート・デットを構成するか？

プライベート・デットは、非公開企業へのローンから、実物資産、インフラストラクチャー、または金融資産プールを担保とした融資まで、幅広い融資手法を網羅しています。

分類法は業界内でさまざまです。以下のフレームワークは、投資機会の全体像をマッピングするために一般的な方法の1つを提供しています。プライベート・デットには、本質的に4つのサブ戦略があります：

プライベート・デット – 戦略分類法



出所: RBCグローバル・アセット・マネジメント、2026年5月。
例示のみを目的としています。投資助言ではありません。

プライベート・デット市場は無視できないほど成長しており、今なお成長を続けています

Q1. プライベート・デット戦略がポートフォリオにおいて果たそうとしているのはどのような役割ですか？

資産配分におけるポートフォリオ目標を検討してください。インカムや分散、負債マッチング、流動性ソリューション、またはよりオポチュニスティックなリターン追求などがあるでしょう。投資期間と資金投下要件の確認も必要です。既存のプライベート・デット保有との重複を精査してください。目標は既存の保有を補完することですか、それともそこから分散することですか？

Q2. 戦略における主要な基調的リスクは何ですか？

プライベート・クレジットでは通常、企業収益リスク、デフォルト・リスク、およびレバレッジへの感応度が含まれます。インフラストラクチャー・デットには、資産キャッシュフロー・リスクとデレションへの感応度が伴います。資産担保ファイナンスには担保パフォーマンス・リスクがあり、より難解な構造の場合は、非標準資産の評価という追加の複雑性を伴います。返済やキャッシュフロー、担保、またはそれらの組み合わせに関連した特定のリスクを理解することは、あらゆる評価の基礎となります。

Q3. ストレス時において、相関性や流動性の凍結、バリュエーションへの圧力という観点から、戦略はどのようなパフォーマンスを示す可能性がありますか？

歴史的に見て、契約上のキャッシュフローや実物資産の担保に裏付けられた戦略は、ストレス環境下においてコーポレート・クレジットよりも低い価格評価のボラティリティを示してきましたが、流動性の凍結はすべてのプライベート・デット戦略に影響を与える可能性があります。サブ戦略間、および他の非流動性資産クラスとのストレス時の相関は、通常、正規化されたデータが示すよりも高く、モデルに基づく評価は、タイムリーなリスク管理が最も重要となる時に損失の認識を遅らせる可能性があります。

Q4. どのようなポートフォリオ構築またはガバナンス能力を考慮する必要がありますか？

リスク許容度に加えて、非流動性許容度と複雑性への選好を評価する必要があります。これは理論的な問題ではなく、実務的な問題としてです。オペレーション能力やレポーティング・インフラ、ガバナンスの処理能力は、運用会社によって大きく異なる実際の制約です。ロイヤルティ・ファイナンスやSRTなどのより難解な戦略では、専門的なデュー・デリジェンス能力は優位性ではなく前提条件となる場合があります。一部のサブ戦略では、運用者間のリターンのばらつきが非常に大きくなる可能性があります。市場プレミアムを獲得するには適切なスキルが必要であり、適切なマネジャーを特定することが鍵となります。

投資家は、既存のプライベート・デット・エクスポージャーの構成も考慮する必要があります。金利がゼロ近辺で、コベナンツの規律が緩んでいた2020年から2022年頃に構築されたポートフォリオは、今日行われる新規の資産配分とは大きく異なるリスク特性を持っています。レガシー・ビンテージのエクスポージャーの管理と新規コミットメントの規模決定は同じ作業ではなく、これらを混同すると、サイクル上デフォルト・リスクに最もさらされている部分に、意図せず集中が発生してしまう可能性があります。

「返済やキャッシュフロー、担保、またはそれらの組み合わせに関連した特定のリスクを理解することは、あらゆる評価の基礎となります。」



Q5.どのようなプレミアムが獲得可能で、リスクに見合った十分な報酬はありますか？

前述の、各戦略が組み込むプレミアムの性質の話に戻ります。ほとんどのプライベート・デット戦略は何らかの形で流動性プレミアムを含みますが、複雑性やデレション、戦略固有のプレミアム（ロイヤルティ・ファイナンスにおけるIPプレミアムや劣後債における構造プレミアムなど）も関連する場合があります。問題は、提供される報酬が、想定されるプレミアムの特定の組み合わせに対して十分かどうかです。特に、それらのプレミアムの一部が圧縮されている可能性がある環境においては、尚更です。

これらの質問を総合することで、投資家は戦略を目標に合わせるための構造化された基盤を得ることができ、初期設定ではなく意図的にその選択を行うことができます。

以下のマトリックスは、これらの側面に対して戦略ユニバース全体をマッピングし、戦略選択の構造化された出発点を提供します。評価は目安であり、特性は個々の戦略によって異なる場合があります。

プライベート・デット – 戦略マトリックス: リスクの高いものから低いものへ

戦略	ポートフォリオにおける役割	流動性	複雑性	ダウンサイド・プロテクション	マクロ感応度	潜在レバレッジ
オポチュニスティック&ディストレスト・クレジット						
マルチ戦略オポチュニスティック	オポチュニスティック・リターン	赤	赤	黄	赤	赤
不良債権 (NPL)	危機 & 回復エクスポージャー	赤	赤	黄	赤	黄
スペシャル・シチュエーション	オポチュニスティック・リターン 危機 & 回復エクスポージャー	赤	赤	黄	赤	黄
ストレート&ディストレスト・ローン	シクリカル (景気敏感) 高キャリー 危機 & 回復エクスポージャー	赤	赤	黄	赤	黄
コーポレート・プライベート・クレジット						
ベンチャー・デット	シクリカル (景気敏感) 高キャリー	黄	赤	赤	赤	緑
メザニン & 劣後債	シクリカル (景気敏感) 高キャリー	赤	黄	赤	赤	赤
シニア/ユニトランシェ・ダイレクト・レンディング	変動金利インカム	黄	黄	緑	黄	黄
資産担保ファイナンス						
無形資産ABF (ロイヤルティ、IP、ソフトウェア)	分散キャリー	黄	赤	黄	緑	黄
シグニフィcant・リスク・トランスファー (SRT)	分散キャリー	赤	赤	黄	赤	黄
有形資産ABF (航空機、船舶、機器)	分散キャリー	黄	黄	緑	黄	黄
実物資産デット						
NAV & ファンド・ファイナンス	流動性ソリューション 変動金利インカム	緑	黄	黄	緑	黄
不動産プライベート・デット	ディフェンシブ・インカム	赤	緑	黄	黄	黄
インフラストラクチャー・デット	負債を意識したインカム ディフェンシブ・インカム	赤	黄	緑	緑	黄

より高いリスク ↑

より低いリスク ↓

流動性: 緑 = 1年未満 | 黄 = 2-5年 | 赤 = 5年以上
 ダウンサイド・プロテクション: 緑 = 低 | 黄 = 中 | 赤 = 高
 潜在レバレッジ: 緑 = 低 | 黄 = 中程度 | 赤 = 高
 複雑性: 緑 = 低 | 黄 = 中 | 赤 = 高
 マクロ感応度: 緑 = 低 | 黄 = 中 | 赤 = 高

*リスクランキングは参考であり、個々の戦略や市場環境によって異なる場合があります

出所: RBCグローバル・アセット・マネジメント、2026年5月。
 すべての赤-黄-緑のコーディングは、説明目的のみの参考評価です。投資助言ではありません。

より慎重なアプローチの時

プライベート・デットは機関投資家のポートフォリオの主流な構成要素となりましたが、ほとんどの投資家の保有方法は資産クラスの進化に追いついていません。シニア担保付きプライベート・クレジットへの集中は、その戦略がパブリック・クレジットに対して明確で、十分なプレミアムを提供していた時には理にかなっていたと言えるでしょう。

「プライベート・デットは機関投資家のポートフォリオの主流の構成要素となっていますが、ほとんどの投資家の保有方法は資産クラスの進化に追いついていません。」

2026年において、その前提はより微妙になっています。スプレッドは圧縮され、デフォルトはコロナ禍後の低水準から上昇しており、復活した銀行の競争力が、資金流入の大部分を集めた市場セグメントに圧力を加えています。

プライベート・デットには、ほとんどの資産配分が反映するよりも広範な投資機会が存在します

インフラ・デットや不動産プライベート・デット、有形・無形資産の両方にわたる資産担保ファイナンス、およびファンド・ファイナンス戦略はそれぞれ、コーポレート・ダイレクト・レンディングとは異なるリターン・ドライバーや担保基盤、リスク特性を提供しています。これらは単に同じようなものではなく、主に1つの観点のみから過去10年間に亘ってプライベート・デットへのエクスポージャーを構築してきたポートフォリオにおいては、現在十分に活用されていない有意義な分散の源泉となる可能性があります。

正解はすべての投資家にとって同じではありません。

負債マッチング特性を持つ長期のインカム収入を求める年金基金にとって、インフラ・デットと不動産プライベート・デットは、ダイレクト・レンディングでは再現できない固定金利の担保付きキャッシュフローを提供します。

ソルベンシーIIの資本効率を管理する保険会社にとって、適格なインフラおよびシニア担保付き不動産債務の資本取り扱いにより、戦略選択は単なる利回りの問題ではなく、資本収益率の問題となります。

長期の投資期間と高い複雑性許容度でリターン向上を目指す寄付基金や財団にとって、資産担保金融戦略（ロイヤルティ、IP担保レンディング、シグニフィカント・リスク・トランスファーを含む）は、コーポレート・クレジット・サイクルと構造的に無関連な固有のプレミアムを提供します。

これら3つの投資家が共有しているのは、候補リストではなくフレームワークの必要性です。私たちが提案する5つの診断用の質問（ポートフォリオの役割、基礎的なリスク・ドライバー、ストレス時の対応、ガバナンス能力、獲得されるプレミアム）は、そのフレームワークを提供するように設計されています。

それぞれが特定の目的を果たし、特徴ある要素で構成される多様なツールキット

そのフェーズに最も適した立ち位置にいる投資家は、どのプライベート・デット戦略が利用可能かではなく、どの戦略が自分のポートフォリオに属すべきか、そしてなぜか、というより難しい質問を今問い始める投資家でしょう。

執筆者

クリス・マーティン

クライアント担当ポートフォリオ・マネジャー、オルタナティブ戦略

RBC GAM-USのクライアント担当ポートフォリオ・マネジャーであり、オルタナティブ投資戦略に注力しています。その役割において、投資家とともに当社のオルタナティブ投資能力のポジショニングに関するすべての取り組みを主導しています。オルタナティブ投資チームと米国ディストリビューションチームの間の橋渡し役を務め、社内外のオルタナティブ戦略に関する問い合わせ、プロジェクト、イニシアチブの主要な窓口であるとともに、オルタナティブ投資トレンドに関するメディアからの質問に対応するメディア・スポークスパーソンも務めています。金融サービス業界で15年の経験を持ち、マネジャー・リサーチ、オルタナティブ投資、ヘッジファンド戦略、およびポートフォリオ構築において強力なバックグラウンドを有しています。2025年に入社する以前は、Pathstoneで同社の投資管理リサーチ・グループのディレクターを務めていました。Pathstoneでの9年間で、カスタム・ヘッジファンド・プログラムを開発し、顧客の目標に合わせたオルタナティブ投資ポリシーを実施しました。Pathstoneに入社する前は、State Street Global Marketsでブローカー・ディーラー・オペレーションの役割を担い、Fidelity Investmentsではコーポレート・アクション担当者のポジションを務めていました。2010年に投資業界でのキャリアをスタートしました。

ディスクレーム

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1029号
一般社団法人 資産運用業協会会員、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会会員

■手数料等

当社の提供する投資一任業に関してご負担いただく主な手数料や費用等は以下ようになります。手数料・費用等はお客様の特性、委託された運用金額や運用戦略、運用状況、あるいは当社に係る業務負担等により、下記料率を上回る、又は下回る場合があります。最終的な料率・計算方法等は、お客様との個別協議により別途定めることとなります。

(年率、税抜き)	債券戦略				株式戦略
	ベンチマーク戦略	トータル・リターン戦略	絶対リターン戦略	プライベート戦略	
運用管理報酬（上限）	0.70%	1.30%	1.30%	1.55%	1.00%
成功報酬（上限）	-	20.00%	20.00%	20.00%	-

なお、当社との投資一任契約は、原則、運用戦略に応じた外国籍投資信託を投資対象とします。上記手数料には、お客様から直接当社にお支払いいただく投資顧問報酬、外国籍投資信託に対して投資した資産から控除される運用報酬が含まれます。この他、管理報酬その他信託事務に関する費用等が投資先外国籍投資信託において発生しますが、お客様に委託された運用金額や運用戦略ごとに、あるいは運用状況等により変動いたしますので、その料率ならびに上限を表示することができません。手数料や費用等について詳しくは、弊社担当者にお問い合わせをいただくか、契約締結前交付書面又は目論見書等の内容を十分にご確認ください。

■投資一任契約に関するリスク

投資一任契約に基づく契約資産の運用は、原則、戦略に応じた外国籍投資信託を通じて、実質的に海外の公社債、株式等の有価証券や通貨などの価格変動性のある資産に投資を行います。これら有価証券等には主に以下のリスクがあり、株式相場、金利、為替等の変動による価格変動、及び有価証券の発行会社の財務状況の悪化等による価格の下落により、外国籍投資信託等の基準価額が下落し、損失を被ることがあります。従って契約資産は保証されるものではなく、お客様の投資された元本を割り込むことがあります。また、デリバティブ取引等が用いられる場合においては、上記の価格変動等により、元本超過損が生じる可能性があります。運用による損益は全てお客様に帰属いたします。

価格変動リスク：有価証券の価格変動に伴って損失が発生するリスク

為替変動リスク：外国為替相場の変動に伴って損失が発生するリスク

信用リスク：発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに対する外部評価の変化等により損失が発生するリスク

流動性リスク：市場の混乱等により取引ができず、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失が発生するリスク

カントリーリスク：投資対象国／地域の政治・経済、投資規制、通貨規制等の変化により損失が発生するリスク

なお、契約資産が持つリスクは上記に限定されるものではありませんのでご注意ください。リスクに関する詳細につきましては契約締結前交付書面又は目論見書等の内容を十分にご確認ください。

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、別途記載のない限り資料作成時点のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社の書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途契約締結前交付書面等をお渡しますので、当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。

以上



RBC BlueBay
Asset Management